

1. **PERSON** 明治～昭和前期の哲学者。「西田哲学」として世界的にも知られる。石川県宇ノ気町出身（今のかほく市の中心）。
2. 西田哲学の中心概念。主客未分で具体的・直接的な経験のこと。知・情・意が未分の心や、個人としての自我以前の自己など。禅体験に裏打ち。
3. **BOOK** 西田幾多郎の初著。明治44（1911）年刊行。西洋の知性と東洋の信仰心を統合。後者を自我意識の根底の場として前者の土台とした。
4. **PERSON** 明治～昭和の哲学者・倫理学者。西田哲学の影響下に、『人間の学としての倫理学』を著し、西洋思想を批判的に受容した日本的な哲学を確立。
5. 人間を「にんげん」（個人的存在）としてとらえる西洋思想に対して、「じんかん」ととらえた和辻哲郎の人間観。前者のみでは利己主義に、後者のみでは全体主義に陥るので、その矛盾・対立を弁証法的に高めることが大切であるとした。
6. 和辻哲郎の主著。文化的特徴に決定的な影響を及ぼす地理的条件・自然環境である風土を三つの類型に分けた。
7. 和辻哲郎の『風土』に見られる、インドや南洋諸島を中心に、日本や中国を含めた東アジアなどの類型。自然の恵みと脅威が、受容的・忍従的な民族性や自然崇拜の多神教や汎神論の背景にあるとする。
8. 和辻哲郎の『風土』に見られる、アラビアなどの類型。不毛と死をもたらす暑熱と乾燥が、戦闘的・服従的な民族性や厳格な一神教の背景にあるとする。
9. 和辻哲郎の『風土』に見られる、ヨーロッパなどの類型。温和で規則的な自然環境が、人工的・合理的な民族性や近代的科学精神（人間を自然や神の上位に置くこと）の背景にあるとする。

T. Q. 「幾多郎と哲郎の哲学の日本的なユニークさとは？」

T. A.

幾多郎は東洋的禅の体験に基づく、「客観的個物と主観的我」・「精神と物質」の対立を越えた所に具体的な生や真理をみた。一方、哲郎は『人間の学としての倫理学』の中で、西洋の個人主義と日本の共同体的心情を統合し、「人間は間柄的存在である」とした。